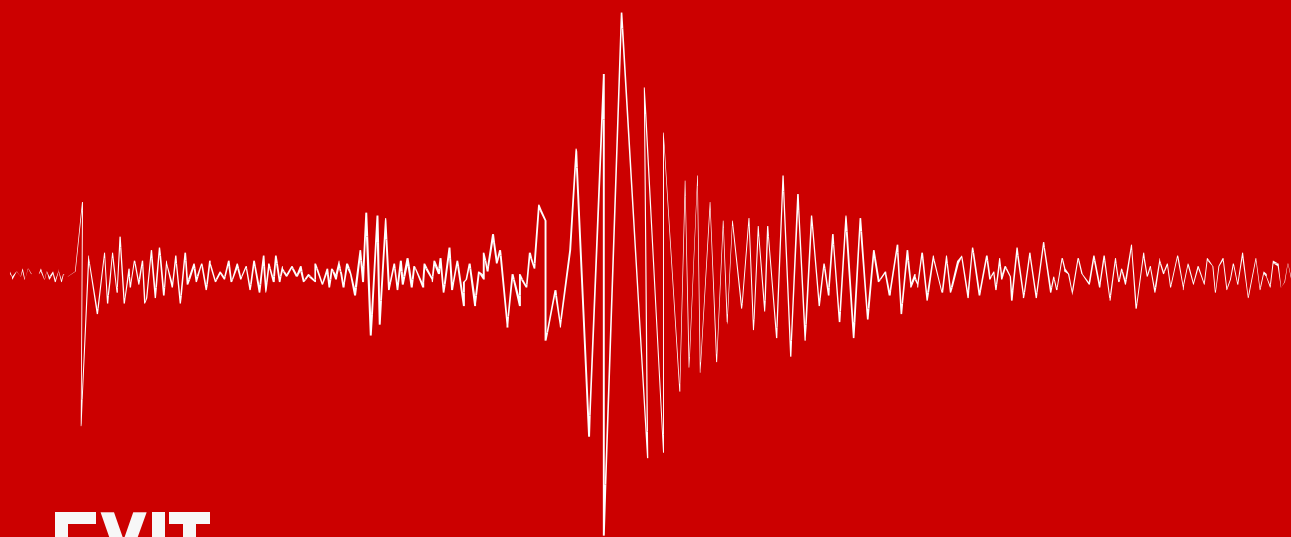


外国人旅行者を対象とした 避難誘導マニュアル



EXIT



外国人旅行者の増加が今後も期待される ～4,000万人の時代へ～

近年、外国人旅行者数の順調な増加傾向が続いています。平成29年は2,869万人(観光庁発表)10年前の状況と比べて約3倍に達しました。今後も東京オリンピック・パラリンピックを控え、順調な増加が続くことが期待されています。

しかし、多くの地域が定めている地域防災計画では、外国人対応について言及されているものの、地域に在住する外国人を想定したものが多く、外国人旅行者を想定した計画は多くありません。特に外国人が多く訪れる観光エリアでは、大規模な災害時には、多数の帰宅困難者の発生が予想されることから、地域における受入体制を構築し、迅速かつ適切な情報提供を行い帰国を支援しましょう。

日本の災害に不慣れな外国人への備え

外国人旅行者は、日本人が通常持っている自然災害に関する知識や経験が多くはありません。特に地震を経験したことがある外国人は少ないため、極端な恐怖を感じる人もいます。

外国人旅行者は、日本に観光目的で来訪している主旨を踏まえ、自助・共助の精神で緊急時の支援に取り組むことが大切です。

本書について

- 本書では、主に観光エリアでの大規模地震災害を想定して、初動対応(避難誘導と帰国支援につながる情報提供)と観光エリアにおける受入体制の構築についてまとめています。
- 有事の際の実用性を考慮し、前半に1. 避難誘導と2. 外国人旅行者への情報提供を配置していますが、これらは3. 平常時の心構えを読みながら地域の実情に応じて加筆することで完成させるものとなります。
- 参考資料では、言語の問題の補助に役立つ、スマートフォンアプリ等のツール、ピクトグラムと多言語文例集等を掲載しています。



目次

1. 避難誘導

STEP1 発災直後	1
STEP2 発災からひと段落	3

2. 外国人旅行者への情報提供

(1)外国人旅行者向け情報窓口の設置	5
(2)情報収集・提供	5

3. 平常時の心構え

(1)災害時の初動対応を予め確認しておく	9
(2)施設内の避難誘導體制を構築しておく	10
(3)観光エリアの避難誘導體制を構築しておく	11
(4)情報収集・多言語対応を準備しておく	13
(5)避難誘導訓練を計画・実施しておく	14

4. 参考資料

・Safety tips	17
・VoiceTra	18
・メガホンヤク	19
・声掛け文例集	20
・ピクトグラム集	23
・コミュニケーションシート例	25
・各主体の役割例	27

A-1 施設内の災害時の担当

【自分の担当は _____ 係】(担当箇所: _____)

関係する係は

【 _____ 係】(担当者名: _____)

【 _____ 係】(担当者名: _____)

【 _____ 係】(担当者名: _____)

【 _____ 係】(担当者名: _____)

A-2 緊急避難場所

施設と緊急避難先の位置関係がわかる
地図を貼りつけて
予め作っておきましょう

1 地域の災害時の係

【自分の担当は_____係】(担当箇所:_____)

関係する係は

【_____係】(担当者名:_____)

【_____係】(担当者名:_____)

【_____係】(担当者名:_____)

【_____係】(担当者名:_____)

2 指定避難場所

指定避難所の場所を含む
地域の地図を貼りつけておきます

指定避難所まで

【_____分】

情報収集リスト

情報収集 記入日 年 月 日記入

	防災関連施設名	電話番号	住所	施設までの距離
例	〇〇機関	△△-××××		500m
行政関連	役所			
	消防署			
	警察署			
避難所	避難場所1			
	避難場所2			
	避難場所3			
ライフライン	災害拠点病院			
	医療機関1			
	医療機関2			
交通機関	JR			
	駅			
	鉄道			
	バス会社			
	タクシー会社			
その他				

